

松岡讓の

漱石山房記念館《通常展》テーマ展示

漱石研究



YUZURU MATSUOKA

その面影は

今なお

私の脳裡に

やきつけられ、

その声

その表情、

その態度、

今なお

目の前に

彷彿とする

松岡讓「漱石の人間について」より



2021年

会期

3月30日(火)～6月27日(日)

会期中、一部展示替あり。

会場

新宿区立漱石山房記念館 2階資料展示室

開館時間

午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)

休館日

毎週月曜日(ただし、5月3日(月・祝)は開館し、5月6日(木)は休館)

観覧料

一般300円、小中学生100円

※小中学生は土日祝日および春季休業日は無料。
※障がい者手帳等をお持ちの方は手帳の提示で無料になります。

主催

新宿区立漱石山房記念館(公益財団法人新宿未来創造財団) <https://soseki-museum.jp/>
〒162-0043 東京都新宿区早稲田南町7 TEL:03-3205-0209 FAX:03-3205-0211

協力

関口安義(都留文科大学名誉教授)

— 岳父への想い —



松岡譲の漱石研究

— 岳父への想い —

松岡譲（一八九一～一九六九）は、『漱石の印税帖』や『ああ漱石山房』など数多くの漱石に関する著作で親しまれている作家です。

現・新潟県長岡市に生まれた松岡は、明治四三（一九一〇）年に東京帝国大学予科である第一高等学校へ入学。在学中、雑誌・第三次『新思潮』に同人の一人として参加し、執筆活動を開始します。漱石とはじめての出会いは大正四（一九一五）年、漱石山房で開かれていた文学サロン・木曜会の時でした。漱石と松岡の交流は約一年という短いものですが、漱石はその後の松岡の作家活動に大きな影響を与えました。生涯を通じ漱石研究に没頭した松岡が、岳父・漱石について記した文章を通して、松岡からみた漱石像に迫ります。

本展にあわせて、会場のコーナー展示では近年新しく収蔵した漱石および松岡ゆかりの資料を初公開いたします。

なお、本展は平成二九（二〇一七）年に寄贈された松岡・半藤家資料の公開を目的として開催するもので、同資料を中心に紹介いたします。



- 1 夏目鏡子述、松岡譲筆録『漱石の思ひ出』改造社、昭和3（1928）年 右より表紙・函※
鏡子未亡人が家庭における漱石の思い出を口述し、松岡が筆録したもの。
- 2 松岡譲『漱石先生』岩波書店、昭和9（1934）年 表紙・カバー
『漱石全集』（昭和3年版）の「月報」に書いた文章を中心にまとめた随筆集。
- 3 松岡譲『漱石・人とその文学』（特製版）潮文閣、昭和17（1942）年
2部構成からなる漱石の評伝。
- 4 松岡譲『ああ漱石山房』朝日新聞社、昭和42（1967）年
松岡の、漱石に関する最後の随筆集。
- 5 松岡譲「猫の墓」原稿
夏目家で飼われていた猫をはじめとするいきものや、そのお墓についての随筆。
- 6 松岡譲『漱石山房図』紙本着色 昭和18（1943）年（新収蔵品）
画面上部に漱石が詠んだ七言律詩を、画面下部には漱石山房図を描いている。

※は個人蔵



【交通のご案内】

電車：東京メトロ東西線「早稲田駅」1番出口より徒歩10分
都営地下鉄大江戸線「牛込柳町駅」東口より徒歩15分
バス：都営バス（白61）「牛込保健センター前」より徒歩2分
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

Natsume Soseki Memorial Museum
新宿区立漱石山房記念館

〒162-0043 東京都新宿区早稲田南町7
tel.03-3205-0209 fax.03-3205-0211
<https://soseki-museum.jp/>

関連イベント オンラインギャラリートーク

YouTubeチャンネル「レガスちゃんねる by 新宿未来創造財団」で担当学芸員による展示解説映像の配信を予定しています。詳しくは当館ウェブサイトをご確認ください。

次回
展示

《通常展》テーマ展示 「夏目家の人々」(仮題)
令和3年7月1日(木)～10月3日(日)

国内の状況により、記載内容に変更が生じる場合がございます。また、新型コロナウイルスの感染拡大を防止し、皆さまに安心してご鑑賞いただくために、必要な対策を講じて開館しております。詳細は当館のウェブサイトにてご確認ください。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。